

2022 年 6 月 27 日

通貨ニュース

メキシコ: Banxico は利上げペースをさらに加速

メキシコ中央銀行(Banxico)は 23 日、金融政策決定会合を開催し、政策金利(翌日物金利)を 75bp 引き上げて 7.75%とすることを全会一致で決定した(図表 1)。利上げは 2021 年 6 月以降、9 会合連続。利上げ幅は前回 5 月会合(50bp)から加速したが、前回国会の声明文で示唆されていたこともあり、市場への影響は限定的であった。また、今国会の声明文では、次回会合(8 月 11 日開催予定)における追加利上げも示唆された。

利上げの主な理由は、引き続きインフレ圧力の高まりとみられる。5 月の消費者物価指数(CPI)は前年比+7.65%と前月(同+7.68%)から僅かに減速。ただ、依然 2001 年 1 月(同+8.11%)以来の水準にある。また、5 月コア CPI は同+7.28%と前月(同+7.22%)から小幅ながら加速を続けており、インフレ圧力がより広範囲に及んでいることがうかがえる(図表 1)。そして、6 月前半時点では、それぞれ同+7.88%と同+7.47%で再加速の動きがうかがえる。

先々のインフレ見通しもさらに上振れている。Banxico の公表した最新の CPI 見通しでは、足許の 2022 年 4~6 月期から 2023 年 7~9 月期にかけての 6 四半期について、再び上方修正が加えられた(図表 2)。CPI がピークを打つとみられる時期と、CPI が同行の目標レンジ(前年比+2%~+4%)に収まってくるであろう時期については、従来見通しを 1 四半期後ずれさせている。また、コア CPI の見通しについては、2024 年 4~6 月にかけて予測対象全期間にわたって上方修正された点も注目されよう。

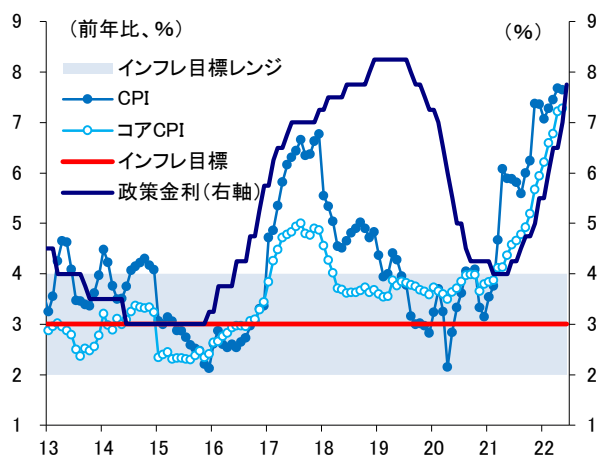
なお、Banxico はインフレを巡るリスクバランスについて、著しく(significantly)上方に傾いているとの認識を示した。ちなみに、同行はインフレの上振れ要因として、①コア CPI の高止まり、②パンデミックに伴う供給制約、③地政学リスクによる食料・エネルギー価格の一層の上昇、④通貨安、⑤賃金上昇等、を挙げている。前回会合ではリスクバランスが悪化している(deteriorating)として、①と③が懸念されていたが、今国会ではさらに④への懸念が込められていると思われる。米国に限らず、主要国で金融引き締め動きが強まっており、通貨安を通じた、間接的なインフレ圧力が従来以上に警戒されているのではないかと。

かかる状況下、Banxico は次回会合でも今国会と同程度(75bp)の追加利上げを検討していることを、以下の通り声明文に記した。コア CPI の上昇にみられるインフレ圧力の拡がりに対応するとともに、間接的な圧力となりうる通貨安に目配りしながら、同行は金融引き締めを続けざるをえない。同行の想定通り、7~9 月期にインフレ率がピークアウトするのかが、当面の注目点となろう。

For the next policy decisions, the Board intends to continue raising the reference rate and will evaluate taking the same forceful measures if conditions so require.

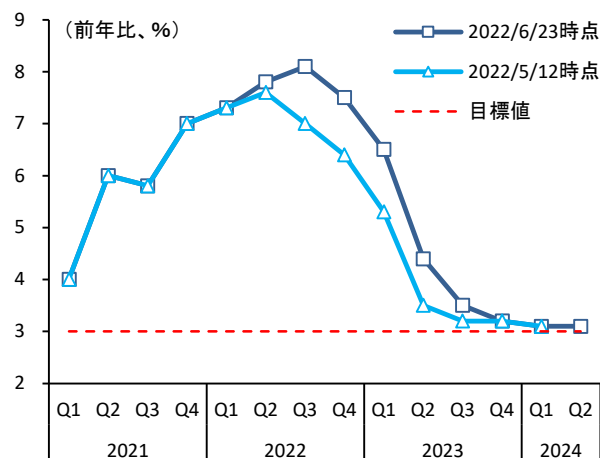
市場営業部
マーケット・エコノミスト
堀内 隆文
03-3242-7065
takafumi.horiuchi@mizuho-bk.co.jp

図表 1: 政策金利とインフレ率



出所: メキシコ中央銀行、地理統計院、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 2: Banxico の CPI 見通し



出所: メキシコ中央銀行、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。